

令和元年度第1回地球温暖化対策の検討に関する専門委員会 議事概要

日時 令和元年9月4日(水) 10:00~12:00
場所 埼玉県県民健康センター1階大会議室C
出席者 植松座長、秋元委員、大久保委員、織田委員、工藤委員、田中委員、
根岸委員、福島委員、八木田委員、山川委員、吉澤委員
(以上11名)

1 開会

2 環境部長あいさつ

- ・ 前回(平成31年3月)の専門委員会以降の国の動きとして、今年6月に「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」が閣議決定された。戦略では、最終到達点として「脱炭素社会」を掲げ、今世紀後半のできるだけ早期にその実現を目指すことを明記している。
- ・ 新知事は「日本一暮らしやすい埼玉」を掲げ未来への責任を果たすことを強く訴えている。温暖化対策も未来への責任を果たすという意味で重要である。
- ・ 委員の皆様を引き続きそれぞれの立場から様々な御意見をいただき、次の10年をしっかりと見据えた計画を策定したいと考えている。
- ・ また、今月、ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催される。県では、熊谷スポーツ文化公園での試合開催に合わせて、「ゼロカーボン3(スリー)デイズ」として排出量取引制度対象事業者に超過削減クレジットの寄付を募るなど、地球温暖化対策の面からも盛り上げたいと考えている。

3 議事

(1) 埼玉県地球温暖化対策実行計画素案について

◇事務局 資料1、資料2を用いて説明。

【委員からの主な意見】

- 目指すべき将来像は緩和と適応で分断せず、統合した方が良いのではないか。
- 目指すべき将来像の「環境と経済が両立した持続可能な社会」がどのようなものか、どのように作っていくのかを示した方が良い。
→(事務局)再度検討する。また、どこまで具体的に書けるか検討する。
- 既存の「地球温暖化への適応に向けて～取組の方向性～」に具体的な課題を書くのではなく、本計画に盛り込んではどうか。章立てについても再度検討し

てはどうか。

→（事務局）庁内の関係課とともに施策内容の見直し作業を行いながら検討していく。

- 気候変動問題における県の役割を明示するとともに、計画前段で温暖化対策に対する県の取組姿勢、メッセージを示した方が良い。

→（事務局）表現の充実、他の部局の施策等との整理を行いたい。

- 気候変動とSDGsの関係を計画内で示した方が良い。また、SDGsの認知度が大企業に比べて低い中小企業への啓蒙活動を強調してはどうか。

→（事務局）各施策がSDGsのどの項目に該当するか整理が必要と考える。また、中小企業にとってメリットが出る施策を推進していきたい。

- レジリエンスについては気候変動のみならず防災・減災の観点も関連付けた説明とした方が良い。

→（事務局）本計画内でどこまで防災・減災を踏まえていくか改めて整理したい。

- これまで産業部門で新エネルギーや先端産業関係の開発支援を行ってきたため、その観点を入れた方が良い。

→（事務局）産業の育成について記載しているが、より充実した内容にできるか検討したい。

- 2030年にマイナス26%を実現できると思っている人はいないと思う。危機感を計画の中でうたい、大変な目標だという認識を持ってもらえるようにした方が良い。

→（事務局）どこまで書けるか検討したい。

- 家庭部門について、数値目標は難しく理解が進まないことも懸念される。例えば「家族団らんを見直してみよう」といった文言を入れ、自分の行動と地球環境のつながりを感じられるようにしたらどうか。

→（事務局）県民にどのような取組をしていただきたいかが伝わる表現を検討したい。

- 全体的に平坦なイメージである。計画を確実に実行し、最大の効果を上げるといった強いメッセージを入れたらどうか。

→（事務局）検討したい。

- 適応策の部分の表記を充実させてはどうか。

→（事務局）どこまで書くかを再度検討したい。

- 県内の地域性を加味した方が良いのではないか。

→（事務局）施策レベルで違いが書けるか改めて確認したい。

- 計画をつくるだけでなく、もっと本質的な目標を作って進めたらどうか（例えば再エネ、省エネの目標など）。

- 根拠のない数字で目標設定しても逆に問題である。現状を把握した上でステ

ップを明示化することで足りるのではないか。

→（事務局）今回の計画には各施策の内容を記載している。数値目標を改めて別の計画で作るか庁内で検討する。

(2) 目標設定型排出量取引制度の第3計画期間に適用する事項について

◇事務局 資料3を用いて説明。

◇工藤委員（目標設定型排出量取引制度小委員会座長） 小委員会の検討について報告。

【委員からの主な意見】

- 効果の出ている取組ということで、敬意を表する。
- 埼玉県と東京都だけではなく、できれば国全体でやるべきではないか。九都
県市首脳会議などで話をしてはどうか。
→（事務局）毎年県で政府要望を行っている。また、令和元年はシンガポール
で行われた国際会議でも発表し、世界でも埼玉モデルに関心を持っていただ
いているので、今後も発信をしていきたい。

4 閉会

以上